

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】

康陽球

【所属】(助成決定時)

京都大学人間・環境学研究所

【研究題目】

装う身体が作りだす社会空間——ベトナム在住チャム人イスラム教徒を事例に

【研究の目的】(400字程度)

ベトナムのチャム人、そのなかでもとくにイスラム教徒の身体(所作や感覚)の構成に、装うという行為がいかに関わっているのかを、人びとの身体観との関わりから明らかにする。さらに、装うという行為によって身体(感覚)が作られていく過程を明らかにし、ジェンダーや民族の境界が再生産・変容するメカニズムを解明する。

【研究の内容・方法】(800字程度)

調査は主にベトナムのつぎの4カ所で行った。ホーチミン市、ドンナイ省、アンヤン省チャウドック市、ニントゥアン省ファンランータップチャム市である。ホーチミン市とドンナイ省では、チャム人コミュニティでのフィールドワークやモスクでのインタビューを行うとともに、都市部に出稼ぎにきたチャム人の若者たちと生活をともにしながら調査を行った。チャウドック市およびファンランータップチャム市では、チャム人の村に住み込み、フィールドワークを行った。

まずは、人々がどのような場面でどのような着衣を選択するのかを記録するとともに、衣類を選択する動機、衣類の取得経緯などに関してインタビューを行った。つぎに、衣類以外にも、病に対する語りや、食べ物の選択、日常生活における様々な禁忌事項、死者儀礼などの調査を通して、人々が身体についていかなる観念や感覚を抱いているのかを調査した。

さらに、各調査地においてチャム人イスラム教徒と、近隣民族・異教徒との関係がいかなるものなのかを調査した。チャウドック市、ドンナイ省のチャム人たちは、縫製や衣類の販売に関わっているため、生産現場にも足を運び、販売先である東南アジア各国との関係について調査を行った。ファンランータップチャム市では、イスラム教徒のチャム人と非イスラム教徒のチャム人が隣接して住んでいることから、非イスラム教徒のチャム人との関係を調査した。

【結論・考察】(400字程度)

人々が着衣を選択するさい、その動機付けは、戒律や共同体で共有される規範に従うというものにとどまらず、人々の身体感覚にも深く関わっていることが明らかになった。イスラム教徒が極めて少数派であるベトナムにおいて、イスラム教徒のチャム人たちは、衣類の選択に関して比較的柔軟な態度をとっている。そのなかでも、女性たちはあえてヒジャーブをかぶり、両手両脚が隠れる服装を選び、男性たちはサロンを身にまとう。その理由を人々は、それがもっとも「心地よい」からであると言う。それは衣類の実践だけではなく、食べ物や飼育する動物に対する嗜好にもみてとれる。人々は、それがいちばん「おいしく」「清潔」であり「心地よい」ものであることを強調した。

また、このような身体感覚が、国境をこえたイスラム教徒間のネットワークのなかで構築されていること

がわかった。一部の女性たちがもつ「首を隠さないと落ち着かない」という感覚や、一部の男性たちの「礼拝のさいサロンを身につけることでより深く祈りに集中ができる」という感覚は、留学や交易を通して接触するマレーシアやインドネシアのイスラム教徒やカンボジアのチャム人とのかかわりのなかでつくられていったものである。一方、イスラム教徒であるチャム人たちは、マレーシアやインドネシアで消費される衣類の生産者でもあり、独自のデザインを創りあげ各国に流通させている。さらには、ベトナム国内のバニ教徒のチャム人とも積極的に関わり、彼らにイスラムへの改宗を促したり、バニの人々の生活スタイルにも影響を与えたりしている。このように、イスラム教徒のネットワークとチャム人ネットワークの交差点にいるイスラム教徒のチャム人の実践は、そのネットワークのなかにいる他の人々の身体感覚にも影響を与える可能性を指摘できる。